

進化経済学会

ニューズレター No. 34

June. 2013

進化経済学会事務局 evoeco-post@bunken.co.jp
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
TEL：03-5389-6493
FAX：03-3368-2822



+++++

第17回中央大学大会開催報告
第VI期第2回理事会記録
第17回会員総会記録
学会費納入についてのお知らせ
英文誌委員会報告
部会活動報告
第18回金沢大会のご案内
会員の異動

+++++

第17回中央大学大会開催報告

第17回大会事務局：瀧澤弘和（中央大学）

去る3月16日（土）、17日（日）の2日間にわたり、進化経済学会の第17回年次大会が中央大学多摩キャンパスにおいて開催された。今回の大会は、これまでの進化経済学会でのさまざまな議論と活動実績を踏まえて、「経済危機と進化経済学の可能性」を共通テーマとして開催された。

9月のオータムコンファレンス後から開始した発表受付には多数の申し込みがあり、最終的には、2日間にわたって午前中から夕方までのすべての時間帯を埋める24ものセッションが開かれることになった。こうしたセッションで発表された論文の総数は79件にもなる。このうち、5つのセッションは「国際セッション」として企画され、Barkley Rosser Jr.氏など内外の参加者を含めてすべて英語でおこなわれた。また、そこで発表された論文数は18本にもなる。ポスターセッションでも、昼休みにおこなわれたショート・プレゼンテーションに多数の聴衆が集まり、活発な質疑応答がなされ盛況であった。

今回の大会参加者は受付ベースで、正会員が125名、学生会員が18名であった。延べにすれば、2日間で250名近い方々が参加したと推測される。16日夜に開催された懇親会にも約100名が参加して、各所で活発な意見交換や議論がおこなわれていた。

その他、藤本隆宏氏（東京大学）による会長講演（「進化経済学と実証社会科学の接点」）、塩沢由典氏主催の大会委員会企画（「経済危機と経済学の危機：進化経済学の可能性」）にも多くの会員が参加し、活発な議論が繰り広げられた。

なお、大会事務局でほぼ全セッションの写真を撮影したので、報告者で自分の写真を希望される方があればご連絡いただきたい。

第VI期第2回理事会記録

理事（事務局）：吉田雅明（専修大学）

3月16日 12:00-12:50 中央大学 1409A 会議室

・開催校・中央大学の浅田統一郎理事より、79の報告、140人超の参加登録、懇親会も70人超の参加予約を得て大会は順調に運営されている旨が報告された。

・新入会員として承認された、水野貴之・金明花・酒本恭聖・前川佳一・若林隆久・大坂洋・稲水伸行・森谷博之・貫成人・安部悦生・舛井道晴・金佑眞・久保由加里・山本堅一（届出順・敬称略）の14名を加えて、個人会員390、院生会員63、賛助会員1、招待会員2の計456名が大会時点での会員数として会勢が報告された。

・新たに「制度と統治」研究部会（代表：海老塚明（大阪市立大学）・幹事：宇仁宏幸（京都大学）・事務局：中原隆幸（阪南大学））の設立が承認された。

・2001年度大会の総会で学会刊行物に関する著作権委譲の決議がおこなわれたが、用語の不正確な個所もあるのでこれを明確にして明文化することが承認された（資料1参照）。今後、大会報告論文集作成にあたっては明示的に利用許諾を求め、学会刊行物にかんしては（すでにEIERでおこなっているように）著作権委譲のサインを求めることが承認された。

・谷口会計担当理事より、以下の6点の報告がおこなわれ、案件が承認された。

1. 繰越金は約200万円となり増加したことから、会費値上げの危機はとりあえず回避された。しかし、この繰越金の増加は、主に前年度の大会校（摂南大学）の経費節減（100万円→60万円）と、小樽商科大からの編集費収入（約40万円）、会計業務委託削減（約20万円）による一時的なものである。

2. 会費の納入状況は全く改善されていない。昨年の会費納入の際に会長名で滞納金の納入の願いを送付したが、滞納金の160万円は回収できなかった。むしろ昨年の過年度納入額（26万→23万）よりも少なかった。

3. 来年度以降も一層の経費削減に取り組む。具体的には、大会費と部会費の削減である。現在、正会員できちんと年会費を払っているのは330人程度である。つまり、年会費による収入は330万円程度である。

第 17 回会員総会記録

4. 科研費補助や終身正会員の一次的基金をあてにするのではなく、このフローに合わせた会計をおこなうべきで、具体的に、来年度は大会費と部会費を削減する。部会活動は活発におこなわなければならないが、当面はなしで我慢してもらい、どうしても必要な部会は個別に申請することとする。その際、振込金額は人数×2千円かつ5万円以内とする。

5. EIER を有料ダウンロードに切り替えたことで、どの程度の収益（あるいは損失）が発生するか見通しがたたないので、できるかぎり繰越金のストックは取り崩さないようにする。

6. 2013 年度は国際文献との契約更改の時期である。ほぼ従来どおりを踏襲する。ただし、会計業務の国際文献への委託料 20 万円が削減されたが、今年は国際文献から相当なボランティアのようなサポートがあり、これなしには到底運営できない。したがって、来年度以降、日々の入出金の記録などのために必要な 6 万円の会計業務委託費を支払う。

・会則の変更について

進化経済学会会則、理事会運営細則、選挙細則、監査規定について変更案が提案され承認された。なお、学生（院生）会員が学会費の減免を申請する場合、所定の様式を使うことになった。会則新旧対照表（資料 2）および会費減免申請書（資料 3）を参照。

・EIER について、有賀裕二副会長・編集委員長より、無料ダウンロード可能であることを理由に購読をやめる図書館があるなどの事情から、有料ダウンロード化の提案があり承認された。なお、会員にはパスワードが会費納入時に通知され、これまでどおり無料ダウンロード可能となる。

・日本経済学会連合担当が、有賀裕二・吉田雅明理事から植村博恭・荒川章義理事へと変更された。

・次回（第 18 回）大会は金沢大学で開催されることが報告され、担当の瀬尾崇理事よりオータムコンファレンスは 8 月 31 日（土）石川県政記念いのき迎賓館（懇親会：21 世紀美術館内カフェ・レストラン Fusion21）に於いて、また年次大会は 2014 年 3 月 15-16 日（土・日）金沢大学角間キャンパスにおいて開催することが紹介された。

・進化経済学会第 17 回会員総会は、2013 年 3 月 17 日（日）14 時から 15 時まで、中央大学多摩キャンパス 8301 教室で開催された。

・会員総会の議長として、宇仁宏幸会員が推薦され承認された。

・藤本隆宏会長の挨拶に続き、会勢報告（新入会員 14 名を加えて、個人正会員 390+院正会員 63+賛助会員 1+招待会員 2 の計 456 会員）がおこなわれた。

・2011 年度決算について、服部茂幸監査委員より承認の旨、報告された（別掲）。

・谷口和久会計担当理事より、学会会計状況について次のように報告された。

繰越金は約 200 万円となり増加したため、会費値上げはとりあえず回避された。しかし、この繰越金の増加は、主に前年度の大会校（摂南大学）の経費節減（100 万円→60 万円）と、小樽商科大からの編集費収入（約 40 万円）、会計業務委託削減（約 20 万円）による一時的なものであって、会費の納入状況は改善されていない。昨年の会費納入の際に、会長名で滞納金の納入のお願いを送付したが、滞納金の 160 万円は回収できなかった。よって、来年度以降も一層の経費削減に取り組む。具体的には大会費と部会費の削減をおこなう。

・引き続き谷口理事より、会則について、進化経済学会会則、理事会運営細則、選挙細則、監査規定について、変更案が提案・説明され承認された。これにより、

【終身正会員】63 歳以上の正会員が、5 年分の会費を一括で納めることによってこの資格が得られる。

【準会員】通常の会員資格はないが、有料で ML のみに参加することができる。（これまで会員/非会員を問わず ML に参加することを認めてきたが、サーバ管理費用も会費から支出されていることから設置）

の新設が承認された。なお、学生（院生）会員が学会費の減免を申請する場合、所定の様式を使うことになった。会則改正点は「資料 2」（別掲）を、会費減免申請書は「資料 3」（別掲）を参照。

・吉田雅明事務局担当理事より、大会報告論文集や出版物を制作するためには原著者の利用許諾もしくは著作権（とくに複製権・頒布権）の委譲が必要であり、これまでは2002年の総会で著作権委譲が決議されているが、用語に不備があるとの会員からの指摘を受けたこともあり、大会校報告論文集については、次のように「利用許諾」を明文化することが提案され承認された。なお、EIERでは、これまでどおり Transfer of Copyright, その他の学会出版物については、EIERと同様に明示的に著作権委譲を求める。「資料1」を参照。

・有賀裕二副会長・EIER編集委員長より、無料ダウンロード可能であることを理由に購読打ち切りを検討している図書館があるなどの事情から、有料ダウンロード化の提案があり承認された。なお、会員には会費納入時にパスワードが通知され、これまでどおり無料ダウンロードできる。

・次回（第18回）大会開催校・金沢大学の瀬尾崇理事より、オータムコンファレンスは8月31日（土）石川県政記念しいのき迎賓館で、年次大会は2014年3月15-16日（土・日）金沢大学角間キャンパスにおいて開催することが報告された。

【資料1】（大会報告論文集における著作権の取り扱いについて）

進化経済学会 大会報告論文集 投稿規定（著作権関連）

1. 著作権の許諾

大会報告論文集（『進化経済学論集』）に掲載された記事の著作権は、原則として著作者に帰属いたしますが、当学会がこれら著作物を以下の出版物等に転載または再掲載することについて許諾していただきます。

- (1) 紙媒体もしくはCD-ROM, DVD等の電子媒体に記録した「大会報告論文集」
- (2) 当学会の大会関連のwebサイト

2. 転載

大会報告論文集に掲載されたご自身の記事の一部または全部を、他の出版物、印刷物にそのまま転載される場合、進化経済学会事務局に対する事前の連絡は必要ありません。ただし、「進化経済学会大会報告論文集」に掲載されたものであることを明記して下さい。

3. webサイトでの掲載

執筆者または第三者が開設するwebサイト上で、大会報告論文集に掲載されたご自身の記事を掲載する際も、進化経済学会事務局への連絡は必要ありません。ただし、掲載にあたっては「進化経済学会大会報告論文集」に掲載されたものであることを明記して下さい。

4. 原稿中での既存の著作物利用に関するトラブル

投稿論文中の既存の著作物の利用（引用・転載など）にかんして、著作権者とのあいだで生じた紛争については、著作者（投稿者）本人がその任に当たることとします。

5. 編集物としての「大会報告論文集」の著作権

編集物の全体としての「大会報告論文集」の著作権は、進化経済学会が保持するものとします。

【資料 2】（会則新旧会則対照表）

進化経済学会会則	
旧	新
第4条 本会は、 <u>個人会員</u> 、招待会員、および賛助会員（個人あるいは団体）で構成される。	第4条 本会は、 <u>個人正会員</u> （ <u>個人終身正会員</u> と学生（院生）会員を含む。以下同様）、招待会員、賛助会員（個人あるいは団体）、および <u>個人準会員</u> で構成される。
第6条 <u>会員</u> は本会の主催する研究会やネットワークに参加し、また本会の刊行物を受け取ることができる。	第6条 <u>個人正会員</u> 、招待会員、賛助会員は本会の主催する研究会・大会や <u>メーリングリスト</u> に参加し、また本会の刊行物を受け取ることができる。 <u>個人準会員</u> は本会のメーリングリストに加わることができる。
第8条 <u>個人会員</u> は、 <u>個人会員総数</u> の20名以上の参加によって各種部会（地方部会、専門部会）を組織し、理事会に承認を要求することができる。	第8条 <u>個人正会員</u> は、 <u>個人正会員総数</u> の20名以上の参加によって各種部会（地方部会、専門部会）を組織し、理事会に承認を要求することができる。
第9条 <u>個人会員</u> は役員 <u>の選挙権・被選挙権</u> をもつほか、議題を示して <u>個人会員総数</u> の10分の1の支持を得れば、本会の総会・理事会にたいしてその開催と審議を請求できる。	第9条 <u>個人正会員</u> は役員 <u>の選挙権・被選挙権</u> をもつほか、議題を示して <u>個人正会員総数</u> の10分の1の支持を得れば、本会の総会・理事会にたいしてその開催と審議を請求できる。
第17条 会則の改正は理事会の出席者過半数あるいは、 <u>個人会員</u> の10分の1以上の提案によって総会に提出する。	第17条 会則の改正は理事会の出席者過半数あるいは、 <u>個人正会員</u> の10分の1以上の提案によって総会に提出する。
《附則》 <u>（発足時の措置）</u>	《附則》 <u>（発足時の措置）</u>
5. <u>個人会員の会費</u> は年1万円であるが <u>学生（院生）会員</u> はその半額とする。 <u>賛助会員</u> は個人の場合は1口3万円、団体の場合は1口5万円とする。	5. <u>個人正会員の会費</u> は年1万円とする。 <u>賛助会員</u> は個人の場合は1口3万円、団体の場合は1口5万円とする。
	7. <u>個人正会員</u> は、63歳を越えた最初の年度より会費5万円を一括納入することで <u>個人終身正会員</u> となることができる。 <u>個人終身正会員</u> は会費納入を免除される。 <u>個人終身正会員</u> を希望する会員はその旨を学会理事会に申請しなければならない。
	8. <u>個人正会員</u> は、大学院等に在籍する学生およびそれに準じる研究者である場合、申請によって <u>学生（院生）会員</u> となることができる。 <u>学生（院生）会員</u> は会費が半額に減免される。 <u>学生（院生）会員</u> を希望する会員は別に定める「 <u>学会費減免申請書</u> 」を学会理事会に提出しなければならない。
	9. <u>個人準会員の会費</u> は年2千円とする。 <u>準会員</u> を希望する会員はその旨を学会理事会に申請しなければならない。
	10. 16回大会（2011年度）より、年次大会参加にあたっては大会参加費として <u>個人正会員</u> は2千円を支払うものとする。ただし、 <u>学生（院生）会員</u> は1千円に減免される。
役員選挙細則	
旧	新
5. 理事の一部*は、理事会で作成した推薦理事候補者リストによる信任投票で、投票数の過半の信任を得たものをあてる。残りについては、 <u>全個人会員</u> を被選挙権保持者とする、15名連記の自由投票により、得票上位者となった会員	5. 理事の一部*は、理事会で作成した推薦理事候補者リストによる信任投票で、投票数の過半の信任を得たものをあてる。残りについては、 <u>全個人正会員</u> （ <u>個人終身正会員</u> と学生（院生）会員を含む）を被選挙権保持者とする、15名

を当選者とする。	連記の自由投票により、票上位者となった会員を当選者とする。ただし、選挙年の7月1日現在で会費滞納3年以上のものは選挙権と被選挙権をもたない。
理事会運営細則	
旧	新
5. 個人会員総数 10 分の 1 以上の請求によって理事会を開催する場合には、その請求の代表者を理事会に出席させることができる。	5. 個人正会員（個人終身正会員と学生（院生）会員を含む。以下同様）総数 10 分の 1 以上の請求によって理事会を開催する場合には、その請求の代表者を理事会に出席させることができる。
13. 入会希望者は理事会で資格審査する。事務局は審査のために必要な情報（所属、推薦者、その他）を理事会に提供する。	13. 入会希望者は理事会で資格審査する。事務局は審査のために必要な情報（所属、推薦者、その他）を理事会に提供する。学生（院生）会員、個人終身正会員、準会員についても資格審査する。
15. <u>正規会員以外に登録会友のリストを設け、学会活動の案内などをおこなう。必要な場合には実費（印刷物など）・参加費（会合など）を徴収することがある。会費滞納者もこのリストに入る。</u>	15. <u>個人正会員・招待会員・賛助会員以外に個人準会員のリストを設け、メーリングリストによって学会活動の案内などをおこなう。個人準会員は個人正会員の年会費との差額（8 千円）と大会参加費（2 千円）を支払うことで、本会が主催する支払当該年度の研究会・大会に参加し、同年度の刊行物を受け取ることができるものとする。</u>
監査規定	
旧	新
1. 監査委員の選任・任期：理事会が会員のなかから複数名に委嘱し、会員総会において承認を受けて就任する。	1. 監査委員の選任・任期：理事会が個人正会員のなかから複数名に委嘱し、会員総会において承認を受けて就任する。

進化経済学会 年会費減免 申請書

申請日 年 月 日

氏名 _____

所属 _____

下記の理由により、進化経済学会年会費の減免を申請します。

申請理由 _____

減免期間 年 月 ~ 年 月

申請者は減免理由を証明する書類（学生証など）の写しを添付してください。
また、減免期間の延長を希望される場合には、再度減免申請書を提出してください。

進化経済学会
平成23年度 収支計算書決算報告
(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

区分	予算額	決算額	増減	支出	予算額	決算額	増減
収入	4,326,000	4,295,600	-30,000	大消費	1,000,000	974,829	-25,171
会費				東京経済大学寄付金	2,000,000	2,003,869	3,869
正会員当年会費		3,320,000		通信費	200,000	94,420	-105,579
正会員前年度分		520,000		交際費	100,000	22,000	-78,000
学生会員当年会費		380,000		事務用品費	50,000	118,125	68,125
学生会員前年度分		60,000		雑費	40,000	0	-40,000
賛助会員当年会費		50,000		研究会費	20,000	8,125	-11,875
賛助会員前年度分		0		各種費	100,000	24,000	-76,000
雑費	0	200,000		印刷費	200,000	0	-200,000
大卒会費人(包括費以上)		302,040		事務委託費	750,000	794,733	44,733
大卒会費		230,000		交際費	50,000	0	-50,000
交通費		0		学全備付費	350,000	250,000	-100,000
交通費		0		経済学会連合会費	35,000	25,000	-10,000
収入合計	4,326,000	4,295,600	-30,000	収入合計	4,990,424	5,018,649	28,225
支出				支出合計	4,990,424	5,018,649	28,225
当期収入合計	4,525,000	5,593,225	1,028,225	不渡費	100,000	78,529	-21,471
前期繰越金	405,424	495,424	90,000	当期支出合計	4,095,000	4,713,271	-618,271
合計	4,930,424	6,018,649	1,028,225	繰越金	-4,570	1,305,273	1,309,843

(異日ごとの内訳)

区分	予算額	決算額
大会費用	69,300	
印刷品費	8,100	
会費	210,000	
大会運営費	146,000	
大会学生補助費	143,900	
交通費	11,140	
振込手数料など	1,280	
英文誌編集発行費	579,829	
印刷費	1,171,000	
印刷-2023刷費	885,465	
印刷費-郵送料等	947,439	
事務用品費	22,525	
旅行費等	94,500	
余費請求打倒・用紙代	118,125	
会議費(理事会費等含む)	24,000	
雑費	24,000	

(単位:円)

貸借対照表
(平成24年3月31日現在)

借方	貸方
丁度勘定簿	丁度勘定簿
現金	現金
普通預金	普通預金
貯蓄預金	貯蓄預金
債権	債権
借入金	借入金
負債	負債
合計	合計

財産目録
(平成24年3月31日現在)

科目	管理区分	金融機関	金額
現金			405,424
普通預金			438,854
貯蓄預金			1,345,271
債権			
借入金			
合計			1,345,271

(負債及び正味財産の部)

科目	管理区分	金額
正味財産		40,000
前年度繰越金		40,000
負債		
借入金		
合計		40,000

上記の通り相違のないことを確認しました。

平成 24年 6月 20日
進化経済学会監査委員
平成 24年 7月 1日
進化経済学会監査委員

澤邊 紀生
服部 茂幸



学会費納入についてのお知らせ

理事（会計）：谷口和久（近畿大学）

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード9900，店番109），預金種目 当座

店名：一〇九 店（イチゼロキユウ店），口座番号0022493

口座名義：進化経済学会

振込の連絡先：〒169-0075 東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター 進化経済学会事務局

Tel：03-5389-6493

Fax：03-3368-2822

E-mail：evoeco-post@bunken.co.jp

1. 振込先の口座番号を記載致しました。学会のHPに掲載した場合，不特定多数の目に触れ悪用される懸念もあるので，ニュースレターにのみ掲載いたします。
2. 原則として，学会の年会費は，学会事務局から郵送される「振込票」を使って振込してください。納めていただいた方のチェックがもっとも簡便にかつ確実にできるからです。
3. 「振込票」の紛失など，やむを得ず民間金融機関からのオンラインバンキング（インターネットバンキング）を利用して送金される場合は，メールにて振込をした旨の連絡を必ずお願いします。その際，「氏名」「所属」を必ず記載してください。
4. 振込期限は7月末です。納入期限を過ぎましても郵便振替用紙はご利用になれますが，督促状の発送をおこなうために不必要な費用がかかります。期限までに納めてくださいますようお願いします。

本件にかんするお問合せ先：

〒169-0075 東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター 進化経済学会事務局

Tel：03-5389-6493

Fax：03-3368-2822

E-mail：evoeco-post@bunken.co.jp

英文誌委員会報告

英文誌編集委員会：有賀裕二（中央大学）

小誌 Evolutionary and Institutional Economics Review を、常日頃ご愛顧いただき誠に有り難うございます。原稿収集の遅延その他の諸事情により、昨年度 9 巻の刊行に遅れが生じ、誠に申し訳ございませんでした。3 月末日に 9 巻を J-STAGE 上にアップロードし、また 4 月に郵送を完了いたしました。

0. 新専用ホームページのリリース

国際的商業ルートをもたない小誌は、ますます激化する国際的論文獲得競争と販路拡張に遅れをとっております。J-STAGE プラットホームの EIER エントランスは、投稿ひとつにかんしてもどこから入ってよいか大変わかりにくい状況にございました。小誌の専用ホームページは以前から計画していたものですが、小誌はすべて手弁当の運営のため、諸般の事情でなかなか進捗いたしませんでした。

このたび、高増明会員の多大なご協力により、念願の専用ホームページをリリースすることができました。すでにメーリングリストでご報告いたしましたが、再度ご報告させていただきます。まずは以下のサイトをご覧ください。

<http://evolutionary-and-institutional-economics-review.jp>

日本からの国際発信をアピールする目的で、jp ドメインで登録しております。なお、このサイト上に News/Announcement を開設いたしました。併せてご覧ください。

<http://evolutionary-and-institutional-economics-review.jp/announcements.html>

1. 昨年度 EIER 刊行と一部有料ダウンロードへの移行のご報告

以下の報告は、進化経済学会第 17 回大会の総会（3 月 17 日）で総会承認された事項です。3 月 28 日にメーリングリストにて一部先行してお知らせしたものと同内容ですが、重要な変更でございますので再度紙面を借りてご報告いたします。

小誌のオンライン・プラットフォームである J-STAGE センターの管理上、小誌は 3 月 28 日よりオンライン上

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/eier>

で一部有料ダウンロード（最新の 3 巻にかぎって）に移行することになりました。ただし、abstract にかんしては全号無料ダウンロードできます。vol.7-9 の 3 巻を有料ダウンロードに移行しました。とりあえず、巻号年次が変わるごとに、古い巻号は無料とし、最新 3 巻について有料とする政策です。

なお、セキュリティ管理上、会員には新年度の会費請求書を郵送いたします際に、併せてパスワードを郵送させていただきます。会員は、会員 ID とパスワードで無料ダウンロードすることができます。ご不明な点は、下記センターにパスワードをお尋ねください。

進化経済学会事務局 evoeco-post@bunken.co.jp

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL：03-5389-6493

FAX：03-3368-2822

（事務局の住所が変更になりましたが、事務局が別会社に委託されたわけではございません。従来通り国際文献印刷社ですが新住所と新名称となりました。）

2. 定期購読拡大のお願い

海外の小誌の定期購読機関でオンライン無料ダウンロード可能なジャーナルは、定期購読契約を見直す政策が実際に執行され、小誌の定期購読が解約されるケースが発生しました。国内でも同じ傾向にあります。これがオンライン政策の変更を余儀なくされた主たる理由です。会員各位におかれましては、小誌の一部有

料ダウンロード化を機会に、所属機関に小誌が有料ダウンロードのジャーナルであることを伝え、小誌定期購読契約の販路拡張していただけますと大変助かります。どうぞよろしくご協力お願い申し上げます。

3. 刊行月の変更と早期公開の導入のご報告

小誌は創刊以来、年間2号(3月号 no. 1, 9月号 no. 2)を公刊して参りました。昨年度、年度末出版の慌ただしさを避ける目的で、公刊月を6月号 no. 1, 12月号 no. 2に変更いたしました。すでに2012年3月に vol. 8.2 を出版していましたが、ちょうど vol. 9 補遺号 Supplement を2012年4月に公刊することになったため、6月の公刊を見送り、2012年12月の公刊(vol. 9.1)を予定いたしました。冒頭で触れましたように、原稿収集事故のため、vol. 9.1の公刊が遅れてしまい、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。しかし、年間2号公刊の事業を中断したわけではございません。昨年度は、Supplement 号を含めて2号の公刊とさせていただきます。また、vol. 9.1について、オンライン公開を年度内3月末日に何とか間に合わせる事ができました。

新年度2013年より vol. 10 公刊に速やかに移行する所存でございます。2013年には vol. 10.1, June, vol. 10.2, December の順で事業をおこなう予定でございます。さらに、新年度から J-STAG 上で「ジャーナル早期公開制度」を導入し、初校グラを公刊前に公開いたします。

4. 投稿のお願い

第17回中央大学大会では久しぶりに国際セッションを設営し、英語セッションは5セッション、英文報告18本(総報告件数79本)となりました。EIERの次号 vol. 10.1, June は、今回の年次大会英語セッションで投稿された「経済物理関係の論文」で特集号を組んでおります。現在、特集号の論文はすべて揃い、現在審査改訂中でございます。6月末日までの刊行はむずかしい状況でございますが、鋭意できるだけ早い公刊を進めております。

次号予定の経済物理特集号は、学会発表とEIERへの投稿とが直接結合する画期的な試みとなっております。また、経済物理以外の国際セッションの論文も投稿されております。しかし、日本語セッションで報告なさった会員もぜひ英語化し、できるかぎり早急に投稿していただき、EIERの質の向上にぜひご貢献ください。小誌は、もともと進化経済学会の会員に投稿していただくためのジャーナルです。ぜひ積極的にご投稿いただけますと幸いです。

5. 若手会員のみなさんへ

まだ英語で投稿することに慣れていない会員もぜひご投稿ください。はじめはnoteのような小項目に投稿することをお勧めします。また、「abstractのみの投稿」も受け入れます。ぜひ早急にご投稿ください。質問などがあれば、

編集委員(事務局担当)小川一仁: kz-ogawa@kansai-u.ac.jp

まで、お気軽にお問い合わせください。

今後とも Evolutionary and Institutional Economics Review のご支援を心よりお願い申し上げます。

部会活動報告

<制度とイノベーションの経済学研究部会>

文責：徳丸宜穂（名古屋工業大学）

1. 部会研究会

日時：7月1日（日）13:00-18:00

場所：京都大学百周年時計台記念館第2会議室

内容：

I. 欧州現地調査報告

・清水耕一（岡山大学）INTERREG III事後評価報告書（2010）について

・徳丸宜穂（名古屋工業大学）北欧特にフィンランドのイノベーション政策

II. ポスト3・11の地域・環境・エネルギー政策：欧州と日本

・後藤康夫（福島大学）福島県における地域政策と運動の動向

・赤間道夫（愛媛大学）愛媛県における地域政策と運動の動向

・八木紀一郎（摂南大学）ドイツ・スウェーデン・デンマーク

2. 部会に関連した大会セッション開催

第17回中央大学大会にてセッション「欧州の地域・環境・エネルギー政策 I, II」をもった。

<九州部会>

文責：岡村東洋光（九州産業大学）

研究会（九産大経済学会と協賛）の概要

日時：2013年3月9日（土）午後2時から5時

場所：九州産業大学1号館9階，経済学部中会議室

報告者：谷口和久（近畿大学経済学部教授）

論題：『生産と市場の進化経済学』（共立出版，2011）を巡って

<観光学研究部会>

文責：井出明（追手門学院大学）

観光学研究部会では，2012年度は以下の通り活動を行った。（回数，部会設立時からの通し番号で，敬称は略させていただいている。）

第14回研究会

日時：2012年7月1日（日）

場所：かごしま県民交流センター3階，大研修室2

講演：福島大輔（NPO法人桜島ミュージアム）桜島の魅力とエコツーリズム

第15回研究会

日時：2012年9月14日（金）

場所：渋谷区初台区民会館

科学研究費補助金申請のためのワークショップ

第16回研究会

日時：2012年12月8日（土）

場所：追手門学院大学梅田サテライト

招待講演：上梶英之（神戸学院大学）“橋と石碑から見る近代以前の観光誘致”

講演1：上村聖（上村コンサルティング事務所・首都大院）ロジスティクスの視点から見た観光業における現場力の課題と改善の可能性

講演2：久保由加里（大阪国際大学短期大学部）日本におけるフットパスによるリージョナルプランニングに関する一考察

第17回研究会

日時：2013年3月15日（金）

場所：首都大学東京9号館374号室

招待講演：有馬貴之（首都大学東京）2000年以降における観光地理学の動向

特別講演：西田和夫（八王子観光協会）八王子の観光政策について

会計については，以下のとおり支出し，担当幹事の監査を経た。

進化経済学会観光学研究部会会計報告

研究会講師謝金 20000

交通費 15000

輸送費 1800

会場費 9400

会議費 3800

<企業・産業の進化研究部会>

文責：吉田雅明（専修大学）

1. 研究会

日時：4月18日（水）18:30~20:30

①テーマ：In search for an economics of product variety

発表者：塩沢由典（中央大学）

②テーマ:生産現場リーダーの役割の ABS 的解明の試み

発表者:稲水伸行(筑波大学)・吉田雅明(専修大学)

③テーマ:産業進化の論理:日本のゲームソフト産業の事例 ("A study on the factor of the industry evolution -an empirical research of Japanese video game industry-")

発表者:生稲史彦(筑波大学)

④テーマ:製品アーキテクチャの組織内選択過程に関する研究

発表者:福澤光啓(成蹊大学)

日時:6月27日(水) 19:00~20:30

テーマ:三位一体論と過程分析の親和性:いわゆるガレニャーニの『古典派のコア』からの検討

発表者:吉井哲(名古屋商科大学)

日時:10月10日(水) 19:00~20:30

テーマ:経済学になぜ人工物の視点が必要なのか

発表者:瀧澤弘和(中央大学)

日時:11月28日(水) 19:00~20:30

テーマ:人工物進化と経済発展:シュンペーターの発展動学を通じて

発表者:小林大州介(北海道大学大学院博士後期課程)

日時:1月23日(水) 19:00~20:30

テーマ:中国における日系企業の技能形成と昇進:大連市と東莞市の事例分析

発表者:金明花(横浜国立大学・植村ゼミ)

2. EIER 特集号

EIER 第9巻1号で, Evolution of Firms and Industries のテーマで巻頭言および三論文からなる特集を企画・掲載した。

会計報告(2012年度末)

収入

前期からの繰り越し金 ¥50000

学会からの部会助成金 ¥50000

計 ¥100000

支出

交通・宿泊費補助(小林大州介氏) ¥40000

次期への繰り越し金 ¥60000※

計 ¥100000

※2012年度末での次期への繰越金¥60000は2013年4月24日付で進化経済学会口座に戻しました。

上記、相違ありません 吉田雅明 印

<現代日本の経済制度>

文責:原田裕二(福山市立大学)

第1回研究会:東南アジア経済とアジア経済統合(横浜国立大学アジア経済社会研究センターとの共催)

日時:2012年7月22日(日) 13:00~17:00

場所:桜木町ランドマークタワー18F 横浜国立大学みなとみらいキャンパス

内容:

①発表者:平川均(名古屋大学国際経済政策センター)

テーマ:世界経済の構造転換と東アジアの制度化:ASEANに注目して

コメンテータ:徳丸宣穂(名古屋工業大学大学院工学研究科)

②発表者:吉村真子(法政大学社会学部)

テーマ:マレーシアの経済発展と労働力構造の変化
コメンテータ:頼俊輔(明治学院大学国際学部)

第2回研究会:Asian Economic Integration in Transition: Learning from European Experiences (横浜国立大学アジア経済社会研究センターとの共催)

日時:2012年8月21日(火)・22日(水)

場所:桜木町ランドマークタワー18F 横浜国立大学みなとみらいキャンパス

内容:

Day 1

Morning Session

Session Organizer: Hiroyasu Uemura, Yokohama National University

- Opening Address: Yuichi Hasebe, Dean of IGSS, Yokohama National University

- Hiroyasu Uemura, Yokohama National University

“The Aim of the Conference: Asian Capitalisms in Transition”

- Kazuhiro Okuma, Ministry of Environment and Yokohama National University

“Challenges in the Asian Economic Integration from the Viewpoint of Institutional Coordination in the Economy-environment Nexus”

Discussant: Yuichi Hasebe, Yokohama National University

2nd Session: Learning from European Experiences

Session Organizer: Toshio Yamada, Nagoya University

- Robert Boyer, CEPREMAP, France

“Overcome the Institutional Mismatch of the Euro-zone: Undetected by Conventional Economics, Favoured by Nationally Focused Policies, Fuelled and then Revealed by Global Finance”

Discussant: *Byung-Yeon Kim*, Seoul National University, Korea, *Hiroyuki Uni*, Kyoto University

3rd Session: Institutional Characteristics of the Chinese Economic System

Session Organizer : *Hiroyuki Uni*, Kyoto University

- *Jin Meng*, Tsinghua University, China

“The Marxist theory of Semi-proletarianization and China's Farm-workers”

Discussant: *Akinori Isogai*, Kyushu University

- *Lei Song*, Peking University, China

“Origin, Structure and Limits of So-called Chinese Economic Model”

Discussant: *Robert Boyer*, CEPREMAP, France

- *Z. Zhang*, Shimane Prefectural University, Japan

“Inter-local Government Fiscal Relations” (tentative)

Discussant: *Midori Kizaki*, Yokohama National University

Day 2

1st Session: Structural Changes in the Chinese, Korean and Japanese Economies

Session Organizer : *Hiroyasu Uemura*, Yokohama National University

- *Hiroyasu Uemura*, YNU and *Shinji Tahara*, YNU

“The Transformations of Growth Regime and De-industrialization in Japan”

Discussant: *Yuji Harada*, Fukuyama City University

- *Ous Slava*, Yokohama National University

“Minskian Crisis and the Japanese Economy”

Discussant: *Hiroshi Nishi*, Hannan University

- *Fang Guo*, Yokohama National University

“What Causes China's High Inflation? A Threshold Vector Autoregression Analysis.”

Discussant: *Lei Song*, Peking University, China

- *Woojin Kim*, Kyoto University

“A Study on the Production System of Korea's Automobile Industry: Focused on Automaker-parts Maker Relationship within Hyundai Motor Group”

Discussant: *Norio Tokumaru*, Nagoya Institute of Technology,

2nd Session: Transformation and Institutionalization in East Asia

Session Organizer: *Akinori Isogai*, Kyushu University

- *Byung-Yeon Kim*, Seoul National University, Korea

“The Comparative Analysis of Economic Development of the Two Koreas”

Discussant: *Robert Boyer*, CEPREMAP, France

- *Hironori Tohyama*, Shizuoka University and *Yuji Harada*, Fukuyama City University

“The Diversity of Asian Capitalisms and Heterogeneity of Firms”

Discussant: *Lei Song*, Peking University

- *Hitoshi Hirakawa*, Nagoya University

“Structural Shift of the World Economy and Institutionalization in East Asia”

Discussant: *Jin Meng*, Tsinghua University, China, *Toshio Yamada*, Nagoya University

3rd Session: General Discussion: Asian Economic Integration Learning from European Experiences

Session Organizer : *Robert Boyer*, CEPREMAP, France, *Hiroyasu Uemura*, Yokohama National University

第3回研究会

日時：2012年11月17日(土) 13:30~17:00

場所：阪南大学 サテライトキャンパス

内容：

①発表者：齊藤日出治(大阪産業大学)

テーマ：アグリエッタ=オルレアン編『貨幣主権論』を読む

②発表者：磯谷明德(九州大学)

テーマ：福田順『コーポレート・ガバナンスの進化と日本経済』を読む

第4回研究会：Diversity of Capitalisms and International Governance: Europe and Asia (横浜国立大学アジア経済社会研究センターとの共催)

日時：2013年2月10日(日)

場所：桜木町ランドマークタワー18F 横浜国立大学みなとみらいキャンパス

内容

I. Diversity of Capitalisms and International Governance

Moderator: *Robert Boyer* (Institut des Ameriques, Paris), *Hiroyasu Uemura* (Yokohama National University)

- *Hiroyasu Uemura* (Yokohama National University)

"Introduction: toward a Collaborative Research on Diversity of Capitalisms and International Governance"

- *Yuji Harada* (Fukuyama City University) and *Hironori Tohyama* (Shizuoka University)

"Diversity of Capitalisms and International Governance: Asia and Europe"

- *Kazuhiro Okuma* (Ministry of Environment, Yokohama National University)

"The Environment-Growth Regimes in Japan and International Environment Governance"

- *Kouta Kitagawa* (Kyoto University)

"Transformation of German Socio-Economic System in

Varieties of Capitalism-Focus on the Discourse and the Sphere of the Coordination, Environmental Policy- "

II. The Euro Crisis and European Integration.

Moderator: *Toshio Yamada* (Nagoya University)

- *Robert Boyer* (Institut des Ameriques, Paris)

"Why is it so difficult to build supranational governance?"

An assessment of the recent advance within a technocratic approach towards a federal Europe"

III. Comments and Discussions on the Lessons from the Euro Crisis

Moderator: *Hiroyasu Uemura* (Yokohama National University)

Comment 1: *Sokou Tanaka* (Chuo University)

Comment 2: *Kazuhiko Yago* (Waseda University)

General Discussion: Robert Boyer, Sokou Tanaka, Kazuhiko Yago, and others.

<非線形問題研究部会>

文責：有賀裕二（中央大学）

進化経済学会非線形問題研究部会の 2012 年度研究会は下記の活動をいたしましたのでご報告申し上げます。活動は電子メーリングリスト *evocojapan* の他に有賀のホームページ (<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activities.html>) にて案内しています。

なお、以下の研究会はすべて中央大学企業研究所を主催としています。そのため、報告書は同時に中央大学企業研究所に提出されています。

1. 研究会セミナーの開催

進化経済学会非線形問題研究部会 2012 年度 No.1

ミニ・シンポジウム「技術と進化経済学/先端技術から長期展望まで」

中央大学企業研究所研究会主催，進化経済学会非線形部会共催

日時：2012 年 7 月 14 日(土)13:30-18:00（終了後、懇親会あり）

場所：中央大学多摩キャンパス 2 号館 4 階第 4 会議室

アクセス：http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_tama_j.html

<プログラム>

挨拶：浅田統一郎（第 17 回中央大学大会・大会実行委員長）

第 1 部 13:30 ~16:00

・和泉潔（東京大学大学院工学系研究科准教授・システム創成学専攻）金融市場における自動取引戦略の生態学

・澤谷由里子（科学技術振興機構研究員，IBM 東京基礎研究所より出向）サービス科学と今世紀のテクノロジーの発展、及び雇用創出のための一モデル

・有賀裕二（進化経済学会副会長・EIER 編集長，中央大学教授）テクノロジーの進化と社会・経済システムの変質

コーヒー・タイム 16:00~16:30

第 2 部 16:30 ~18:00

討論：瀧澤弘和（中央大学経済学部）ほか

司会：塩沢由典（中央大学商学部）

第 3 部 ワイン・パーティ 18:00~19:30

[ご参考] 企画趣旨説明：塩沢由典

経済発展・経済成長における技術の役割は、絶大なものです。進化経済学会は、もともと「制度経済学会」を立ち上げる予定が、初代会長・瀬地山敏会長の提案により、進化経済学会となりました。その流として挙げられたのが、「進化」なら技術も含むというものでした。進化経済学の初心に帰る一環として、今回のミニ・シンポジウムでは、技術を取り上げます。

和泉潔先生は、人工市場研究の第一人者です。その研究は、金融市場を研究するとともに、市場研究の分析装置を開発するという二重の意義をもっています。今回は、現在、市場で進行している自動取引の最新の

状況を紹介していただき、金融市場の研究を今後どう進めていくかについてともに考えます。

澤谷由里子先生からは、雇用創出に不可欠なサービス経済化推進における技術の役割と可能性についてお話いただきます。長期低迷する日本経済を新たな視点から見直すきっかけになると期待しております。

有賀裕二先生からは、昨年出版されたブライアン・アーサーの『テクノロジーとイノベーション：進化と生成の論理』（みすず書房）を素材にしながら、独自の展望をお話しいたします。

討論の口火は、瀧澤弘和先生にお願いしますが、参加者の皆さんにぜひ今後の見通し・展望を語っていただきたいと考えております。参考資料としては、上記アーサーの本とともに、カウフマンの『カウフマン、生命と宇宙を語る』（日本経済新聞社）[特に第9章]を参照してください。カウフマンは、1万4千年前（農耕開始前）の数千種類から現代の数百万にまで商品種の増えたことが、経済発展のもっとも基本的な事実であると指摘し、「技術・商品・サービスの多様性の成長」に切り込むような経済学の必要を指摘しています。これがたいへん難しい課題であることはよく分かりますが、進化経済学だからこそ可能な領域でもあるといえます。

討論では、人工物としての商品の進化を含めた長期の展望にたつて、今後の日本経済・世界経済についてともに考えることができれば幸いです。

進化経済学会非線形問題研究部会 2012 年度 No.2

中央大学企業研究所公開研究会主催、進化経済学会非線形部会共催

日時：2013 年 3 月 16 日（土）17:30-18:30

場所：中央大学多摩キャンパス 7 号館 1 階 7104 教室

アクセス：http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_tama_j.html

講師：Duk Hee Lee（KAIST 教授）

論題：Relative wealth concerns, positive feedback, and a financial fluctuation

*当該報告は、進化経済学会中央大学大会の国際セッションで報告されたものであるが、中央大学企業研究所主催・非線形問題研究部会と共催の形式で開催された。

2. 会計報告

収入の部

繰越金 139,254 前期より繰越

部会補助費 50,000

収入合計 189,254

支出の部

次期繰越 189,254

支出合計 189,254

なお、2013 年 4 月に 150,000 円を返納した。

このあとに監査人の署名

吉田雅明

3. 研究会報告要旨

日時	2012 年 7 月 14 日（土）13 時 30 分～14 時 30 分
場所	研究所第 4 会議室
報告者	和泉潔（東京大学 大学院工学系研究科准教授）
報告テーマ	金融市場における自動取引戦略の生態学
参加者数	22 名

〔報告要旨〕

昨年に引き続き講師 3 名を囲むシンポジウムを開催した。今回のテーマは「技術と進化経済学/先端技術か

ら長期展望まで」であった。昨年のシンポジウムと同じく 20 名を超える多数の参加者（関西、北海道を含む）を得て、懇親会を含めると議論は 20 時まで続いた。シンポジウム全体で「総評を行う」ディスカッション 5 名（瀧澤和弘経済学部教授など）を擁する組織的議論があったが、本報告書は、報告者の議論に絞って紹介する。

講師はマルチエージェントベースシミュレーションで著名な研究者であり、計算科学と経済システム、特に人工市場など先端研究の最前線で研究している。とりわけ、株式市場の「フラッシュ・クラッシュ」を取り上げた報告はきわめてタイムリーな議論であった。報告者により、このクラッシュがいくつかの特殊なアルゴリズム取引間のシンクロナイゼーションによって発生したことが実データを用いて解明された。実データは一部部内秘を含むものである。特定の接続がないかぎり、この種のデータにアクセスすることはできない。このような実データに基づく研究は他で聞く機会はきわめて稀である。本研究会で大変貴重な報告をしてくださった講師のご好意に感謝する次第です。

金融テクノロジーの観点に限ってもみても、リーマン・ショック以降の金融市場の変貌は甚だしい。けっして良い方向へ向かっているとは言えない。米国の株価市場で 2010 年 5 月 6 日に発生した大暴落は「フラッシュ・クラッシュ」と呼ばれる。このとき、リーマン・ショック以上の株価下落 995.55 ドルが発生し、わずか 5 分間で全資産の 5 パーセントが消滅した。その後も、この種の小規模なクラッシュは数千回発生しているとも言われる。フラッシュ・クラッシュでは、1/1000 秒のスケールである銘柄にかんして一時的に株価がゼロになる。このクラッシュが相互に影響を与え合うと一瞬のうちに市場全体の暴落が発生する。実は、この種の超高速取引はアルゴリズム取引の「進化」の結果であるのだが、証券取引所のオークションシステムもこの超高速に応答できるように進化している。この結果、ニューヨーク証券取引所も東京証券取引所もミリ秒のマッチング応答システムを備えている。この結果、フラッシュ・クラッシュ発生のプロセスも記録可能となった。

報告者はフラッシュ・クラッシュの発生に寄与するアルゴリズム取引エージェントを数個同定して、等差数列型の数個のアルゴリズム（ボストンシャッフル）と等比数列型のアルゴリズムが偶然同期化したことがクラッシュの原因となったことを明らかにした。アルゴリズムエージェント自体は素朴な取引をしているにすぎない。指値売りと成行き買いの同時手番はプロのトレーダーの間ではむしろ定石である。しかし、この古典的な定石がミリ秒単位の超高速でなされることにより事態は一変した。さらに、市場に各種の変形アルゴリズムが共存している。アルゴリズムエージェント同士が突然同期してもおかないような環境がすでに醸成されている。そのため、2010 年 5 月以降も小規模なクラッシュが度々起きている。〔報告要旨作成者注〕興味深い点は、フラッシュ・クラッシュの場合、数分後に、一気にゼロになった株価がほぼ従前通りに復帰する点である。これはやはり買いアルゴリズムが適度に実装されていれば可能である。要するに、このようにすぐに復元される場合は、クラッシュが市場の実勢とは無関係にアルゴリズムのシンクロによって機械的に発生したことがわかる。〕

報告者は上記のアルゴリズム取引エージェントを「生物世界の進化」に見立てている。コンピュータの世界では、20 年ほど前、「人工生命」が話題となった。その一つとして、「Tierra」という人工生命は有名である（Ray, T. S. 1991, "Evolution and optimization of digital organisms"）。Tierra では、「初期生物=自己複製可能なプログラム」であり、突然変異によって部分的に変更されたコードが発生する。以下、「人工生命の生態学」では、寄生種、免疫種、重寄生種、共生種が区別できる。

- ・寄生種：自らは複製機能を持たず、他のプログラム（宿主）の複製機能を利用する。寄生種はプログラムの長さが短いため、効率よく増殖できる。宿主が駆逐されると、寄生種は大混乱に陥った。
- ・免疫種：宿主のなかで寄生者の攻撃から身を守る「免疫性」を持った生物が現れ、寄生者を一掃する。
- ・重寄生種：寄生生物に対して寄生する。
- ・共生種：お互いにプログラムを利用しあう。

金融市場のアルゴリズム取引も一種の人工生命である。実際、生物進化の過程で多様な種の発生が見られ、一時は巨大な複雑な生物が支配するが、結果として生き残れたのは弛緩した脊椎動物ではなくむしろ無脊椎動物であった。金融市場の超高速化とそれに対応するアルゴリズム取引戦略の複雑化も、人工生命に做えば、生命進化の諸相に酷似するのではないか。これが報告者の感想である。きわめて示唆的な結論であると思う。

日時	2012 年 7 月 14 日（土）14 時 30 分～15 時 30 分
場所	研究所第 4 会議室

報告者	澤谷由里子 (科学技術振興機構フェロー)
報告テーマ	サービス科学と今世紀のテクノロジーの発展、及び雇用創出のための一モデル
参加者数	22名

[報告要旨]

昨年に引き続き講師3名を囲むシンポジウムを開催した。今回のテーマは「技術と進化経済学/先端技術から長期展望まで」であった。昨年のシンポジウムと同じく20名を超える多数の参加者(関西、北海道を含む)を得て、懇親会を含めると議論は20時まで続いた。シンポジウムは総評を行うディスカッサント5名(瀧澤和弘経済学部教授など)を擁する組織的議論があったが、本報告書は、報告者の議論に絞って紹介する。

講師はIBM東京基礎研究所でコンピュータ研究に携わってきたが、2004年IBM会長サミュエル・J・パルミサーノがサービス科学を提唱した後、サービス科学研究を開始。SRII: Service Research Innovation Institute 日本支部の創設の中心メンバーとなり、科学技術振興機構に出向、文部科学省、経済産業省の後援を得て「サービス学会」(Society for Serviceology)の設立準備中である(2013年春予定)。

「サービス科学」は国内文系では若干馴染みが薄い、すでに世界各国のビジネススクール、コンピュータサイエンスのレギュラーコースとして定着しつつある。国内私学文系でも早稲田、明治をはじめサービス科学コースの設置に熱心な大学がある。まず注意すべき点は、サービス科学はサービス産業に関する特殊な科学ではないということだ。実は、サービス科学は「壮大な新しい総合科学構想」であって、サービスの交換という視点から社会、経済の諸活動を「再定義」する試みである。この意味で、経済学、経営学はサービス科学による「再定義」の対象となっている。さらにまた、科学構想であると同時に、「社会テクノロジー」を通じてサービス生産を革新し所得機会の創出を目指す実践科学である。〔(報告要旨作成者注) 前世紀末のテクノロジー進化により、産業革命以降確立された工場制度は崩壊、失業が増大するが、一方、富の偏在が進行し失業を救済できない。問題解決のため、テクノロジーとそれに伴う社会経済システムの変化に対応して新たに所得創出のネットワークを創出しなければならない。しかし、旧来の技術だけではこの種のネットワークを自動的に創出することはむずかしい。現代社会はまさに新社会テクノロジーを必要としているのである。〕

現代社会は、ICT: Information and Communication Technologyのような「社会テクノロジー」を含む革新の真只中にあり、人工知能とエージェントベースモデリングが効率改善を駆動している。たとえば100万人規模の都市を対象に効率改善を目指すSmarter City構想などはICT関連のテクノロジーに依拠している。これらは、Institutional Adjustment and Production Capitalの時代として要約される。個別のビジネスモデルのミクロな考察だけから全体は見通せない。ビジネスモデルであれば、IT Servitization → Value creation → Value migration → Optimize! である。しかし、サービス科学はICTに限定されるものでない。ツーリズムなど多岐のサービスイノベーションを対象とする。

まずテクノロジーや経済をブライアン・アーサーの用語法に基づきつぎのように考えると、サービス科学を理解しやすい。アーサーは、科学を「現象を整えた知識」、現象を「自然の効果」と考えた。そして「テクノロジー」は、目的を達成するシステム(組織・行動・論理に基づく非物質的なものを含む)と定義する。一方、「経済」は社会が自身のニーズを満たすための調整と活動の集合、テクノロジーが中介する活動、行動、財貨サービスのフローと捉えることができる。

講師の報告は、経済、社会システム全体の不効率推定を含む壮大なテーマに触れている。紙幅の都合上、以下、サービス科学の基礎的定義となる「サービス」概念についてのみ紹介する。サービス科学は民間企業IBMを起点として提唱されたため、当初は、サービス・マーケティングの分野でサービス研究が開始された。ビジネスモデルの創成こそ当初の関心であったのである。古典的定義(1970/2000)は次のように要約される。

- ・単純な商品(goods)に対するサービスの課題の認識
- ・サービスは“行為”であるという共通認識の芽生え
- ・サービスにおける共通課題の定義

IHIP: 無形性(Intangibility), 異質性(Heterogeneity), 同時性(Inseparability), 消滅性(Perish ability)

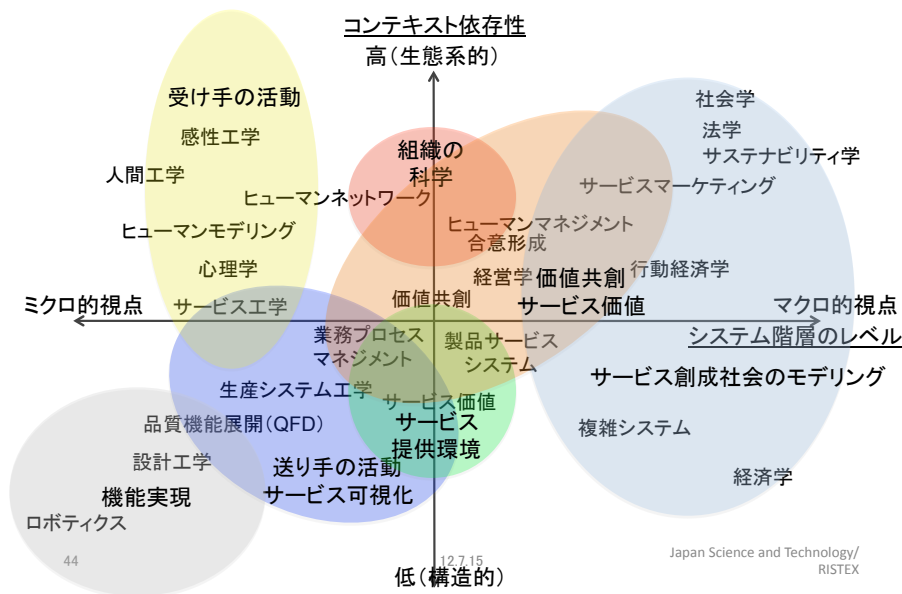
歴史的にはまずサービスの基本性質はIHIPに要約できると考えられた。しかし今世紀に入り、IHIPに対する懐疑が大きくなる。なぜなら、下表のように、いくつかのサービスはかならずしもIHIPを満たさないからである。

	<i>Service Category Involving</i>			
	Physical Acts to Customers' Bodies	Physical Acts to Owned Objects	Nonphysical Acts to Customers' Minds	Processing of Information
Intangibility	Misleading	Misleading	Yes	Yes
Heterogeneity	Yes	Numerous exceptions	Numerous exceptions	Numerous exceptions
Inseparability of production and consumption	Yes	No	Only when performance is delivered "live"	Many exceptions
Perishability – cannot be inventoried after production	Yes	Yes	Numerous exceptions	Many exceptions

Ref: Principles of Service Marketing and Management by Christopher H. Lovelock

これらの議論から、「サービス提供者と“顧客との価値の共創”からサービスを見直す」(Vargo and Lusch) という *Service-Dominant Logic* が受け入れられるようになった。この Service-Dominant Logicこそが、サービスの交換という視点から社会、経済の諸活動を再定義する試みとなり、サービス科学を壮大な新しい総合科学構想とならしめたのである。壮大な科学構想である以上、巨大な関連分野を含む。というわけでサービス科学の展開は他の技術革新の展開と同様、数十年単位で準備されるであろう。テクノロジーの進化はいっそう複雑な相互作用を生み出す。しかし、このような自己組織化の急速な進展に、所得の創出や福利厚生者の改善が自動的に埋め込まれているわけではない。急速な社会システムの複雑化を調整する社会テクノロジーの研究が不可欠となる所以である。

システム階層性Xコンテキスト依存性



日時	2012年7月14日(土) 15時30分~16時30分
場所	研究所第4会議室
報告者	有賀裕二(企業研究所研究員)
報告テーマ	テクノロジーの進化と社会・経済システムの変質
参加者数	22名

[報告要旨]

昨年に引き続き講師3名を囲むシンポジウムを開催した。今回のテーマは「技術と進化経済学/先端技術から長期展望まで」であった。昨年のシンポジウムと同じく20名を超える多数の参加者（関西、北海道を含む）を得て、懇親会を含めると議論は20時まで続いた。シンポジウム全体で「総評を行う」ディスカッサント5名（瀧澤和弘経済学部教授など）を擁する組織的議論があったが、本報告書は、報告者の議論に絞って紹介する。

論題は「テクノロジーの進化と社会・経済システムの変質」であるが、具体的な話題は「取引テクノロジーと金融市場の変質」に絞られた。「金融市場の変質」は人工知能市場と市場の再定義から考察することができる。これらの考察は当日の第一報告である和泉潔「金融市場における自動取引戦略の生態学」と深く関連している。

さて、経済学では実物商品も金融商品も「オークション理論」の枠組みで一括して扱えると考えている人達が多いのですが、オークションというメカニズムは極めて限定的な環境でしか成立しないものです。さらに、マッチングメカニズムのルールが同じであっても、取引対象や取引エージェント数が巨大になれば、推論は異なるのが自然です。この辺が伝統的な経済学では認識されていないのではないかと。

Kevin Slavin(2011)が指摘するように、今世紀は、前世紀のような自然と人間の関係だけで物事を読み解ける時代ではなくなった。人工知能が急成長しもはや人工知能抜きで議論はできない。人間は人工知能と共進化するように方向づけられているようである。すでに、金融市場では人工知能のアルゴリズムが人知を超えて相互作用する世界になっている。実際、米国の金融市場では70パーセントが人工知能によるアルゴリズム取引です。これを例外処理して無視することはできません。まさに複雑系科学の認識がなければ、新しい課題を解けない時代が到来したと言える。

市場取引はもはやヒューマンの関与する余地が少なくなっている。マシンによる自動取引（アルゴリズム取引）が主流である。コンピュータが取引と決済の場を与えるばかりでなく、トレーダーの取引自体も自動化されている。人間の脳は1分を切った急変動には対応できない。つまり、人間による取引はもはや巨大化した証券取引には適合しないのである。ミリ秒とは、秒の1000分の1である。東京証券取引所システムでは、平成24年1月にリリース稼働された次世代売買システム arrowhead で、システムを以下のように更改している。

- ・2ミリ秒の注文応答時間を実現
 - ・2.5ミリ秒の情報配信時間を実現
- このような環境変化に応じて、現代の金融市場はつぎのような特徴を持つようになったと思われる。
- ・古典的実物財の市場の例外こそが常態
 - ・アルゴリズム取引による市場システムの複雑化と巨大化
 - ・見えない市場と巨大な破壊力

まず、金融市場そのものは、伝統的な物財の交換市場とは異質な市場である。実物経済の市場では、売買双方のサイドで「必要性」の交換を基本としているため、askの役割とbidの役割を同時に執行することは例外であり、そのような例外は均衡を達成するためか、ヘッジングのようなリスクヘッジの場合に限られていたものです。ところが、金融市場では、利鞘の追求だけが目的であるので、「古典的実物財の市場の例外こそが常態」となってしまった。これが第一の相違です。

第二の相違はつぎのようなものです。コンピュータアルゴリズムの誕生が、取引システムと取引エージェントのアルゴリズムを誕生させ、アルゴリズム同士の相互作用を創出してしまった。そのうえ、CDSなどの新たな金融商品がつぎつぎと投入され、取引残高は推定額でしか測定できないものの京 10^{16} （10の16乗）の単位にまで巨大化してしまっている。兆でのGDPの測定サイズと比較して 10^4 の桁前後も異なるわけで、このような金融界の急成長はまさに白亜紀の恐竜以上の成長になった。金融市場では、大地震と同じで月単位で起きることはないものの、いったん発生すれば、「リーマン・ショック」や「フラッシュ・クラッシュ」のような大地震と同じ巨大な破壊力が生み出されることになる。

さらに、第三の相違はつぎのようなものです。地震と同じく、現代の金融市場は底が見えません。なぜなら、金融商品の生産主体は、投資銀行だけでなく、ヘッジファンドなどがあるからです。彼らは、「再保険」という機構を利用しローンを債券化しますが、この過程は一般にすべて見えるわけではない。そのうえ、再保険、金融商品、オプションのルールが取引の発展を複雑化している。この複雑化過程は「見えないシステム」により問題をいっそう深刻化しているように思われる。一般に見えにくい金融システムは、SBS: Shadow Banking Systemと呼ばれています（Issing, Krahn, Pieter, Regling and White(2012)）。SBSを考慮に入れると、

金融恐慌はますます地震と似たようなシステムになっているのではないか。地震研究にも海底深く探査が行き届かない場所がたくさんある。要するに、「見えない市場と巨大な破壊力」が第三の相違となるでしょう。

このように見てくると、現代金融市場には意図的に不安定性が実装されているように思われる。ブライアン・アーサーは近著『テクノロジーとイノベーション』でステルス戦闘機 F35 の最新テクノロジーについて度々引用している。ステルス戦闘機 F35 には意図的に不安定性が実装されている。しかし、設計はこの不安定性をコンピュータ制御可能であることを前提としている。このアイデアは現代の金融システムと酷似していることを示唆しているのではないか。金融市場はすでにミリ秒取引テクノロジーで軍事的技術（ミサイル発射ボタン競争）を利用しているが、これはコンピュータ制御ではじめて可能である。さらに、近年、かならずしも正規分布の結果に従わないランダムウォークプロセスが研究され始めている。このようなプロセスに不安定性を実装することは、市場のボラティリティにバイアスを与え、急上昇が急降下をリードする可能性を切り開く。金融市場は変質したのである。

日時	2013年3月16日(土) 17時30分~18時30分
場所	経済学部棟7号館7104教室
報告者	Prof. Duk Hee Lee (KAIST)
報告テーマ	Relative wealth concerns, positive feedback, and a financial fluctuation
参加者数	20名

[報告要旨]

現代の経済危機、とくに金融バブルは悪化すれば悪化するほど再発の期間が短くなる傾向が見られる。Harras and Sornette(2011)によれば、模倣と適応 Imitation and adaptation に基づく「正のフィードバック」が支配的メカニズムである。これが市場の不安定性を増加させる顕著な要因となっている。エージェントの異質性とその相互作用という観点から、以下、エージェントベースモデリングで「正のフィードバック」を検証する。

論題 Relative wealth concerns, positive feedback, and a financial fluctuation のとおり、本報告の着眼点は、「エージェントの異質性」であり、異質性として

- ・取引スタイル3種：risk seeking, risk tolerant, risk averse
- ・相対的な富の格差

に着眼する。よって、本報告の仮説は、つぎのようにになっている。

「仮説」

- (1) 相対的富の格差 → エージェントのリスク態度 → 取引行動 → 金融的変動
- (2) 具体的には以下の経路を考える。

Relative wealth concerns ↑ → Agents' risk seeking ↑ → Stock buying ↑ → Stock Price ↑ → Fluctuation

これらの仮説の下に、つぎのような証券市場のモデリングを行う。

「モデリングの主要な特徴」

- (1) opinion 情報形成のモデリング

他のエージェントからの取引情報、公的情報、私的情報の3種の加重を行う。モデルの他のエージェントからの取引情報は、自己の保有する富の大小に依存してつまり、relative wealth concern に依存して、評価量を変える。ここが、本報告の独自のポイントである。

- (2) 市場決済システムモデリング

(a) 決定は、情報の閾値を上回るとき買い、下回るとき売り、証券価格の指値、注文数量、ポジションで決まる。

(b) 適応の仕方は、公的情報 $k(t)$ と隣接するエージェントの情報 $u(t)$ に依存し、記憶は定率で割り引かれ、超過需要はボラティリティを持つという諸仮定で与えられる。とくに公的情報 $k(t)$ は「群衆行動」と結びついている。

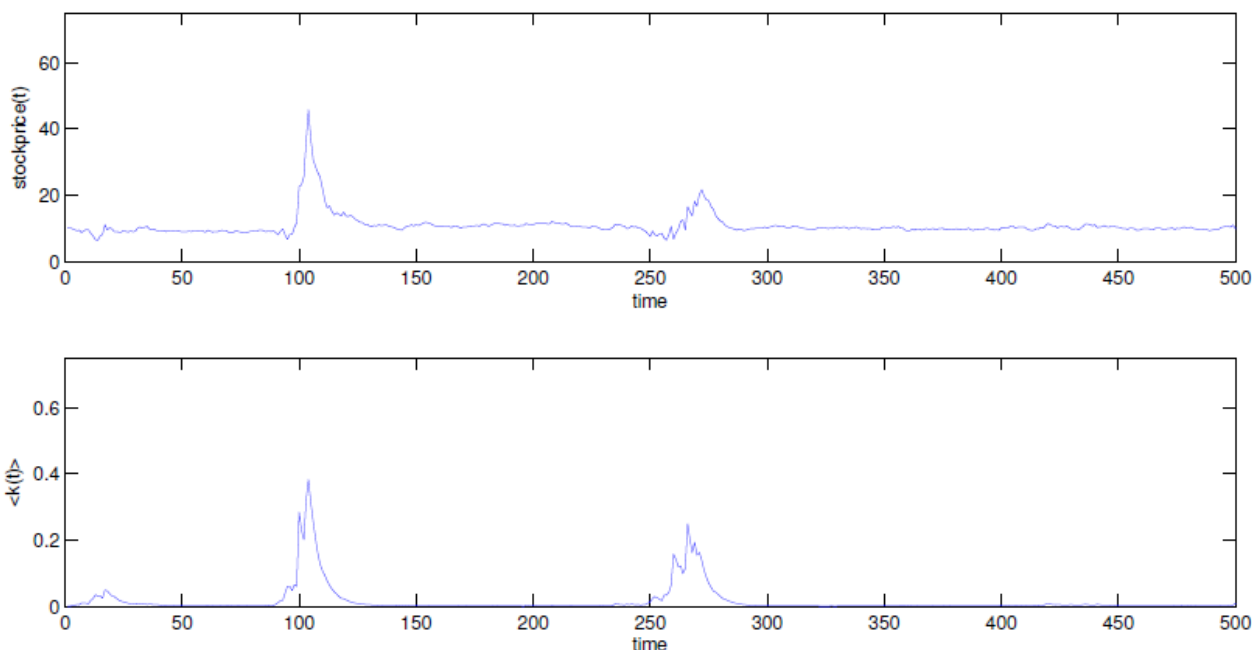
「初期条件」

これらのモデリングに加えて、初期条件として、富の分布は「パレート分布」であるとする。これは、富の分布で富を支配する巨大なエージェントが存在することを意味する。

「主要な結果」

(1) 正のフィードバック

上記の市場エージェントベースモデリングの結果は、パレート指数 1.5 とするとき、「正のフィードバック」が再帰的に生起する。以下、報告レジュメより引用。



(2) 群衆行動

感度解析により以下の結果を検証できる。

(a) パレート指数が証券価格と群衆行動に有意な影響を与える。

(b) 初期時点の富の相対的格差が証券価格に有意に影響を与え、その結果、群衆行動を誘発する。

報告者の導いた結果はきわめて興味深いものであり、また道理に適った結果である。報告者の認めるとおり、たしかに、エージェントベースモデリングの観点から見ても、本報告のシミュレーションは 50×50 のグリッドで行われており、サイズは控えめである。今後、より大きなサイズで検証さるべきであろう。他の限界点も報告者自身が指摘しているが、モデリング自身がきわめて簡潔であり、教育的モデルとしてもかなり良好なモデルであった。

第 18 回金沢大会のご案内

1. 大会テーマ

「進化経済学の原点に還る」

2. 大会趣旨

第 18 回大会のテーマは、次の二点を考慮して設定しました。

第一は、現代の進化経済学の知的源泉としてしばしばとりあげられる三人—T. ヴェブレン, F.A. ハイエク, J.A. シュンペーター—の経済思想・経済学説に立ち返って、現在までの進化経済学の歩みを再考しようということです。第 18 回というこのタイミングで学史的な源泉に「還る」ことは、進化経済学から本格的な研究活動に入った特に若手研究者にとって、自身の研究の足場を固める意味で、また、今後の研究の方向性に対するアイデアを得る意味でも、有意義なことだと思います。おりしも、今年度の大会は、過去 18 回の大会のなかで、もっとも平均年齢の低い事務局で運営しています。われわれを含めたいわゆる「若手」のなかには、1997 年の学会設立時のアツい議論が交わされていた時代を知らない会員も増えてきたように思います。そこで、上記三名の知的源泉から現代の進化経済学研究を再考すると同時に、本学会のこれまでの知的蓄積を再確認するという意味で、今年度の大会で「原点に還る」ことを提案することにしました。

第二は、体系的な講義計画や教科書化に向けて、核となるべき要素が何であるのかを、いま一度考えるきっかけになればということです。昨今、進化経済学の教科書化や教育現場での講義方法など、進化経済学をいかに「体系的に」伝達するかという試みがおこなわれており、本学会からもこれまでいくつかの出版物が刊行されました。進化経済学の体系化という今後も継続される課題に対して、進化経済学の知的源泉となる学説に立ち返ることは、その核となる構成要素は何であるのかを確認しあう意味で、意義のあることではないかと思います。

このように本大会では、理論的・学史的な色合いの強いテーマを設定しましたが、その他、進化経済学の立場から歴史的・実証的・政策的な議論をするうえでも、いま一度「原点に還る」ことで共通の土台を再確認できるものと考えます。

なお、この大会テーマは、オータムコンファレンスと年次大会に共通したテーマとします。オータムコンファレンスでは、これまで T. ヴェブレン, F.A. ハイエク, J.A. シュンペーターの「進化」的な議論を考察されてきた三名の研究者をお招きしてご講演いただくことになりました。この機会に、講演者の先生方から何か新しいアイデアや方向性を得られればと期待しています。また、それを受けて、年次大会でも、大会テーマに関連するセッションの企画や多数のご報告が、会員のみならずから寄せいただけるよう期待しております。

第 18 回進化経済学会金沢大会実行委員会
大会委員長 瀬尾崇 (金沢大学)
大会事務局長 正木響 (金沢大学)
大会実行委員 辻野正訓 (北陸先端技術大学院大学)

3. 大会日程

(1) オータムコンファレンス

日時：2013 年 8 月 31 日 13 時より

場所：石川県政記念しいのき迎賓館

〒920-0962 石川県金沢市広坂 2 丁目 1 番 1 号 TEL：076-261-1111

<http://www.shiinoki-geihinkan.jp/index.html>

会場案内、宿泊案内の詳細 (8 月末は宿舍確保に難航します。至急確保願います!)、その他注意事項は、
大会 HP <https://sites.google.com/site/evoecokanazawa/home>
をご覧ください。上記にすべて明記しておりますが、重要なものにつきまして下記にご案内いたします。

【プログラム】

12：30	受付開始
13：00	司会：西部忠（北海道大学）開会のご挨拶と講師紹介
13：05-14：05	高哲男（九州産業大学） 「ヴェブレンの進化論的経済学：C. ダーウィンの進化論との比較で」
	10分休憩
14：15-15：15	岩井克人（国際基督教大学・東京大学） 「シュンペーターの資本主義論はなぜ進化論的であるのか？」
	10分休憩
15：25-16：25	仲正昌樹（金沢大学） 「進化と慣習と自由：ハイエクの「自生的秩序」論をめぐって」
	10分休憩
16：35-17：45	討論およびフロアからの質問
17：45	事務局からの案内
	懇親会までの時間は、周辺散策、ホテルチェックイン、21世紀美術館見学（ただし有料ゾーンは18時終了）などでお過ごしく下さい。
18：45	21世紀美術館内 Fusion 21 にて懇親会

注意点とお願い

- ①会場設営準備の都合がございますので、大会HPからコンフェランス参加意志表明と懇親会の参加申し込みをしてください。Web申し込みの締め切りは2013年8月23日です。
- ②8月末に金沢で大きなイベント開催予告があります。宿舎の確保を至急お願いいたします。
- ③オータムコンフェランスの参加は無料ですが、懇親会の参加費は以下ようになります。また、今回は、懇親会参加費の事前振込をお願いしております。また、入金が確認されるまで、懇親会の申込みは完了しませんのでご注意ください。加えて、今回は民間のレストランを利用した懇親会になりますため、事前に人数を確定させたく、8月23日までの入金と以後の入金で料金に差をつけております。また、突然のキャンセルとなった場合、事務局が費用を被ることになります。つきましては、8月24日以降のキャンセルにつきましては、原則、返金いたしかねますので、何卒、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

懇親会費用

一般会員 5000円（8月24日以降のお支払は6000円）

学生会員 2500円（8月24日以降のお支払は3000円）

懇親会費の振込先

【ゆうちょ銀行から振り込む場合】※ゆうちょ銀行にお持ちの口座からであれば手数料が無料

金融機関名：ゆうちょ銀行

記号：13120

口座番号：7634801

名義：進化経済学会金沢大会実行委員会

シンカケイザイガツカイカナザワタイカイジッコウイインカイ

【ゆうちょ銀行以外の銀行等から振り込む場合】

ゆうちょ銀行店名：三一八（読み サンイチハチ）店

ゆうちょ銀行店番号：318

預金種目：普通預金

口座番号：0763480

名義：進化経済学会金沢大会実行委員会

シンカケイザイガツカイカナザワタイカイジッコウイインカイ

【郵便局備え付け振替用紙に手書きで下記を記入の上、支払う場合】

※公費支払などで振替用紙での支払いがよい場合は、こちらをご利用ください。

手数料 窓口 120 円、ATM 80 円

口座記号番号 00790-3-100815

加入者名 進化経済学会金沢大会実行委員会

④会場となるしいのき迎賓館の中にはカフェやレストラン（ポール・ボキューズ）はありますが、**コンフェランス会場は原則飲食禁止であり、ゴミを出すこともできません**。したがって、今回は事務局から会場内でお茶やコーヒーのサービス提供を控えさせていただきます。ただし、**各自が自分用のペットボトルや水筒を持ち込み、それを飲用することについては問題ありません**（恐縮ですが、空いたペットボトルはお持ち帰りください）。加えて恐縮ながら、**会場は兼六園や金沢城に隣接した景観維持が必要な地区にあり、コンビニや自動販売機の類は見当たりません**。暑い時期ではありますが、ペットボトル飲料が必要な方は、**駅や片町・香林坊でお買い求めの上、ご持参くださいますようお願いいたします**。片町・香林坊には複数のコンビニがあります。また、大和デパートの地下でも軽食購入可能です。

会場へのアクセス

バスについては、北陸鉄道の HP をご覧ください。



※金沢駅から「しいのき迎賓館」前に到着するバス（バス停の名前は広坂）はありますが、数は限られています。それ以外につきましては、上記にみるように香林坊でバスを下車し、それから徒歩で会場にお越しください。香林坊バス停から会場まで、徒歩で5分ほどです。詳しくは大会ホームページをご覧ください。

(2) 年次大会

日時：2014年3月15・16日（土・日）

場所：金沢大学角間キャンパス 人間社会第1講義棟

会場までのアクセスは、下記をご覧ください。キャンパスは3箇所ありますので、お間違えのないようお願いいたします。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/index.html>

タイムスケジュールおよび懇親会などの詳細につきましては、随時、大会ホームページ（<https://sites.google.com/site/evoecokanazawa/home>）等でお知らせいたします。また、年次大会への参加申込につきましても、オータムコンファレンスと同様、大会ホームページからWeb申込とさせていただきます。準備の都合上、年次大会への参加申込期限を2014年2月28日（金）とさせていただきます。まだ先のことですので、今後も時機をみながら大会HP、メーリングリスト、ニュースレターをつうじてご案内させていただきます。

①セッションの企画提案について

これまでの大会にならって、本年度の大会においても企画セッションを募集いたします。昨年度の第17回大会で、会員からの積極的なセッションの企画提案が呼びかけられ、多くの企画が寄せられたという成果をうけまして、本年度の大会でも、会員のみなさまからセッションの企画提案をお寄せいただきたいと思います。

本年度の統一テーマである「進化経済学の原点に還る」という観点から、また、北陸新幹線金沢開業を目前にした開催校の所在地の観点から、大会実行委員会では、以下のようなセッションを「参考例」として挙げさせていただきます。みなさまからの積極的な企画のご提案をお待ちしております。また、特に「若手」会員からの応募を歓迎しております。

- (1) 経済学史のなかの経済進化
- (2) 経済実験、シミュレーション分析
- (3) 経済制度の進化
- (4) 技術と経済構造の進化
- (5) 観光政策と地域の発展
- (6) その他

*** セッションの提案〆切：2013年9月15日（日）**

セッションの企画要旨：2013年9月30日（月）

送付先：大会アドレス（evoecokanazawa@gmail.com）までPDFファイルで送付してください（なお、セッションの企画提案にかんするお問い合わせにつきましても、同じアドレスでご連絡ください）。

②年次大会 Call for Papers

<報告要旨>

報告をご希望の方は、添付ファイル（必ずPDFファイル）にてご応募ください。なお、ファイルには下記の①～⑤について明記してください。また「題目」・「氏名」・「所属機関」について、英語表記も併記してください。

①報告の題目

②氏名

③所属機関と連絡先

④キーワード（3～5個）

⑤報告要旨（1200字以内）

メール送信の際には、「件名」を「大会報告応募（氏名）」としていただき、メール本文には、「所属先住所」、「所属先連絡先」、「所属先メールアドレス」、「自宅住所」、「自宅電話番号」、「自宅メールアドレス」（所属先メールアドレスと異なる場合）をメール本文にご記入ください。

*** 報告要旨の送付期限：2013年9月30日（月）17：00（厳守）**

送付先：大会メールアドレス（evoecokanazawa@gmail.com）

< 報告論文 >

A4版20ページ以内の原稿を送付していただきますようお願いいたします。送付していただくファイルは、PDF形式でお願いいたします。ファイル名は「ローマ字氏名.pdf」（例、「KanazawaTaro.pdf」：姓と名の最初の文字のみ大文字、姓名のあいだは空白を入れない）としてください。

なお、本年度の大会では、大会経費削減の観点から、配布用のCD-ROMを作成しないことになっております。ご送付いただいた報告論文は、こちらで統合して電子冊子とし、通しページ番号を付したうえで、第18回大会HPおよび進化経済学会HP上にダウンロード可能な状態で公開されます。したがって、ご送付いただく報告論文にはページ番号を付けないでPDF化してください。また、それにとまなまして、論文の書式を統一して、ひとつの論文集（電子冊子）としての体裁を整えることにいたしました。報告論文の様式につきましては、

<https://sites.google.com/site/evoecokanazawa/conference/format>

をご覧ください、必ず様式フォームにしたがってご執筆ください。

原稿をe-mailに添付して大会事務局に送付する際には、「件名」欄に「論集原稿（氏名）」と記入してください。下記の送付期限を必ずお守りください。

*** 報告論文の送付期限：2014年1月10日（金）17：00（厳守）**

送付先：大会メールアドレス（evoecokanazawa@gmail.com）

③その他

これまでの大会と同様、今年度の大会でもポスターセッションの企画を予定しております。担当者との相談のうえ、詳細が決まりしだいアナウンスさせていただきます。

また、昨年度までおこなってございました若手会員向けの「サマースクール」につきましては、担当者と相談した結果、年次大会にあわせて開催することに決まっております。こちらにつきましても、詳細が決まりしだいアナウンスさせていただきます。開催時期が変更になったことにつきましてご留意ください。

進化経済学会金沢大会事務局
evoecokanazawa@gmail.com

会員の異動

1. 新規入会者

氏名	フリガナ		所属先	推薦会員（敬称略）
水野貴之	Mizuno	Takayuki	筑波大学システム情報系情報工学域	有賀裕二
金明花	Jin	Minghua	横浜国立大学成長戦略研究センター	植村博恭, 磯谷明德
酒本恭聖	Sakamoto	Yasumasa	大阪市立大学大学院創造都市研究科 博士後期課程 都市政策研究領域	塩沢由典, 井出明
前川佳一	Maegawa	Yoshikazu	京都大学経営管理研究部経営研究センター	八木紀一郎, 井出明
若林隆久	Wakabayashi	Takahisa	東京大学大学院経済学研究科経営専攻 博士課程	藤本隆宏, 生稲史彦
大坂洋	Osaka	Hiroshi	富山大学経済学部	吉田雅明, 有賀裕二
稲水伸行	Inamizu	Nobuyuki	筑波大学ビジネスサイエンス系	福澤光啓, 鈴木信貴
森谷博之	Moriya	Hiroyuki	Quasars22 Private Limited	有賀裕二, 浅田統一郎
貫成人	Nuki	Shigeto	専修大学文学部哲学科	瀧澤弘和, 有賀裕二
安部悦生	Abe	Etsuo	明治大学経済学部	三上真寛, 吉田雅明
舛井道晴	Masui	Michiharu	石巻専修大学経営学部経営学科	浅沼大樹, 庄子真岐
金佑眞	Kim	WooJin	京都大学大学院経済学研究科博士課程	宇仁宏幸, 佐々木啓明
久保由加里	Kubo	Yukari	大阪国際大学短期大学部ライフデザイン総合学科	塩沢由典, 井出明
山本堅一	Yamamoto	Kenichi	追手門学院大学教育開発センター	西部忠, 宮崎義久

2. 名簿訂正

氏名	変更箇所	住所/種別	TEL/FAX/e-mail	所属先
三浦真岐	自宅住所			
田原慎二	自宅住所			
Wang, Jian (王 剣)	自宅住所			
三上真寛	自宅住所 電話・メール			
佐々木啓介	所属メール			
吉田和男	所属先			京都産業大学
小島専孝	所属メール			
都築栄司	所属先			大東文化大学経済学部
三上真寛	所属先			明治大学経営学部
吉川満	所属先			徳島県政策創造部統計戦略課
西條辰義	所属先			高知工科大学マネジメント学部
加藤浩司	自宅			
福澤光啓	所属先			成蹊大学経済学部
柊紫乃	所属先			山形大学大学院理工学研究科

			工学部システム創成工学科
朽木昭文	自宅		
西本和見	所属先・種別		中部大学全学共通教育部 全学総合教育科
神戸基好	自宅		
白石浩介	所属先		拓殖大学政経学部
渡辺潤爾	所属先		鈴鹿工業高専
八巻恵子	所属先		広島大学マネジメント研究センター

編集後記

今回の No. 34 では第 18 回金沢大会のご案内を掲載しております。ニュースレター編集担当であると同時に、第 18 回大会実行委員会委員長でもありますので、この場を借りまして、ぜひ多くの会員の方々がご参加くださいますようお願い申し上げます。

北陸三県以外から参加される場合、ほとんどの方々が 2 泊 3 日の行程になろうかと思えます。この機会に、金沢市内はもちろん、加賀地方（温泉）や能登地方（世界農業遺産）まで観光されることをおすすめいたします（特にオータムコンファレンスの時に）。

オータムコンファレンスまでちょうど 2 カ月となりました。Web 登録による参加申込期限をご確認いただき、早めに手続きをお済ませください。大会実行委員会一同、みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

ニュースレター編集担当：瀬尾 崇（金沢大学）